

<今回>207回目 2017年3月24(金)16時~18時 1503号室

読書は8冊目「邪馬壹国の論理」233P 倭の5王は九州筑紫の王者である より

<前回>206回目(17-3-3) 出席者10名

資料 17-03-03-1) 前回のまとめ(清水)

-2) 古今金銀譜序 谷口眠斎(最初と最後の頁)(木村由紀夫)

-3) 謎の銀錢2(清水)

## A 報告

10人と久々に大勢来てくれた。天候が晴れたり雨が降ったりと激しかったが今は止んでいる。

津多家で8名、17917円(2500・4+2200・2+2000・2)、+483円

B 資料 -2) 木村由紀夫氏から江戸時代の古今金銀錢譜序の資料を送ってもらったのを探し出して最初の頁に古事類苑から調べて書き足したものと最後の大隅から出た無文銀錢の資料をコピーした。-3) は前回紹介の東大今村啓爾教授の「富本錢と謎の銀錢」の本をさらに要約したもの。①日本書紀、続日本記の貨幣記事の解釈に専門家も困っている。これに和同開珎銀貨と和同開珎銅貨が同じ値打ちだと仮定するとうまく解釈できる。逆に近畿政権の経済の実情を無視した政策がみえる。②無文銀錢の出土実例から古代大量の銀錢が流通していて、これは強力な国家的背景があることを示している。これを私は近畿天皇家に先立つ九州倭国の存在を半ば肯定した議論ではないかと紹介した。欠点は九州から無文銀錢の出土例がないことだが、-2)の江戸時代に2個大隅から見つかった記録があった。(大隅が鹿児島の大隅か、近畿河内の大隅か判定しがたいというのが木村由紀夫氏の見解である)

C 10ページ以上飛ばして、翰苑と東アジアから読書した。(飛ばしたのは7冊目で初めて)

1) 翰苑と東アジアから 太宰府天満宮に張楚金の書いた翰苑第30巻の其の30巻目のみが所蔵されていた。唐の顕慶5年(660年)に成立した本(夷蕃伝の国は14か国)である。(223pに翰苑の誤字あり)

新羅の項には 地任那を惣ぶ と任那の文字が明記されている。(当時任那はないという論に対して)

三韓の項では(海賦にある)境は鯤壑に連なり、地は鼈波に接す、南倭人に届き とあり雍公叡の註は鯤壑は東鯤人の居、海中は州なり、鼈波は海を俱にするなり。鼈波は東海のことであるから日本海に当たる。(この一文は不可解)

2) 漢書地理志には一対で現れる。

会稽海外東鯤人有り分れて20余国を為す歳時を以て来たり献見すと云う(呉地の項)

楽浪海中倭人有り分れて百余国を為す歳時を以て来たり献見すと云う(燕地の項)

3) 銅鐸人の発見 貢献記事は上記2項のみで漢書地理志には全くない。東夷は天性従順三方の外に異なる。

4) 魚偏の意味 海外と海中の意味の違いはフィリピン群島を例にとれば分かりやすい。宋書の高句麗は馬偏の驪である。南宋に高句麗の長寿王から馬800匹を献ぜられ記事から高句驪と書かれた。倭人を物差しにしてその東の端っこに居る人達が魚を献じたことにつけられた東鯤国で歳時貢献の事実を重く見た事が解るのである。

5) 青銅器分布と倭人位置 倭は銅矛、銅戈圈 東鯤人は銅鐸圈とする根拠は①青銅器の出土物分布 ②漢書文献正史と歳時貢献 重要な画竜点睛は志賀島の金印出土である。銅戈圈の中心が筑紫矛、倭人権力の中枢である。

次回日程 4-10(月)16時~18時 1503号室

4-21(金) 16時~18時 1503号室

5-8(月) 601号室と602号室 15時から18時